文元榮枯録

自拾三至拾五

内閣文庫
番號 和 7592
冊數 9 (6)
函號 151 219

内閣文庫
和書
類 七九九二
號
九冊
一五一函
一八架

国立公文書館
National Archives of Japan

教部省文庫印

文元寛結録目次

巻之拾之

一 越前福井藩之

一 陸奥会津同

一 陸奥盛岡同

一 遠州横川藩之

一 甲斐谷村同

一 駿遠両列国之

二万五千石

三万八千石

五万石

石二万石

五十五万石

内閣文庫

内閣文庫

内閣文庫

内閣文庫

仏米蘭三国の品直事

駿河大納言忠長

朝倉筑後守宣室 忠長臣

多賀清治郎成行 右同

多賀左京之丞忠恒

蒲生飛騨守秀行

巻之拾四

一 紀伊和歌山藩 五拾万四千七百石
一 安芸 五万石
一 越前福井藩 二万石
一 常陸水戸藩 五万石
一 伊予松山藩 五万石
一 備後福山藩 六万石
一 伊勢津藩 七万石
一 伊勢川の上藩 三万石
一 上野安中藩 二万石余

淀藩 淀城主 稲葉長政事
淀藩 同藩 長治事
杉原七郎左衛門 家次事
武田万次郎 九信玄
公方甲斐守 家治事
松平石見守 輝完事
一柳監物 直盛事
一柳美作守 直利事
水野信濃守 元知事

一 豊後府内藩
一 奥州仙台藩
一 伊予中村藩
一 備前新宮藩
一 伊勢亀山藩
一 備後三原藩
一 奥州会津藩
一 出雲浜田藩

二万石
三万石
六万五千石
一万石
四万四千石
二万石
一万石
七千石

日根野織部正吉明事
小笠原壱岐守氏重事
池田出雲守長常事
池田又八郎薫時事
堀内伯耆守秀政事
本多下野守勝俊事
酒井雅楽頭忠世事
本庄因幡守宗利事
堀尾山城守忠晴事

一 伯耆黒坂 五万石 関長門守一政事

巻之拾五

一 安芸備後両国之 四十九万八千石 福嶋左衛門大夫正則事

一 伯耆米子城之 十七万五千石 松平伯耆守忠一 中村氏

一 上総久留利城之 二万千石余 土屋伊豫守頼直事

文元常根録巻之拾六

六拾七万石余 越前福井城之 松平参河守忠直

忠直ハ 神君の御孫越前黄門秀康卿嫡男也秀康ハ 神君御

次男也童名於義丸母ハ於萬殿と云 神君三河御在城の時ニ御侍女後ニ

或時御寵愛の手ニ而萬ハ御侍女ニ有し小御手付ニ色々懐妊セリ於

萬早速ニ支配の宅ニ預り重次御受能く男子出生し 天正二甲戌年

二月八日参州敷知郡宇布見村ニて安産也男子出生し給ふ故早速 神君へ達

披露ニ及ひ候処 神君いかなる御思召ニや御対面もなく 神君ハ若君

悦の相なけれハ在所ニ??給ひけれハ依て御父子の事其儘ニ?させ

ありし 天正十二甲申年十一月秀吉養子と成 十一 羽柴氏ヲ秀

となり

の字を賜ハり号羽柴参河守叙任四位侍従同十三乙酉年七

月十二日従四位下左近衛権少将同十八庚寅年三月結城晴朝中将之聟

頃十世の子孫にて
今の代小山下野守
結城七郎朝光也
外祖下野国
女妻之腹
男也郎八
時朝就為福井の幸去年八十一也
なり　清秀右京亮秀康也為養子以女妻之因八月六日
之譲り時朝法名長
上杉家勝の押へ
年　幸也　結城因八　年命年二月十二日時従之任
四月十六日進侍中納言四十二ヶ年来至四月八日就病出家

参議従三位宰相　先是忠直卿　台徳公姫君を嫁し玉ひ江戸より越前へ入玉ひしは土井大炊頭利勝酒井山城守(?)保候せり後三十三年の後江戸へ下向ありし寛文十二壬子年二月廿一日逝去之蓋天徳寺法名天崇院殿穏誉泰安豊寿大善女人と申せし
卿は忠直武勇の誉ありしか驕奢長し我侭かしく参勤の事にも在府中にも出仕にも遅く仮病にて不参を称し在国より越前へ帰り事にて政を廻り酒宴乱舞に長し美女を集め酒狂して罪なき者を刺殺し或は乱行に将担し町に出百姓又は旅人を打殺し孕女を見ては擒捕て自ら割其腹見て興とせられける其の悪行増長し家臣等諫むれとも不用ある時は実見たるとの説ありて雖
然(?)もとく行政を恵せ玉ふ事は　東照宮の孫　将軍の御甥節の時にも且時節大坂の役にも大功の軍功ありし台徳公御恩賞の恩沢成しとも此は別の功也とて治世に成ても猶改まらす放蕩長しけれは人々の忌み恐るる所なり近き者とても大に驚き恐れけり一度も改むる事なく日々悪行多く数々是悪行にて逆上様には思召す所有て寛永元甲子年五月二日豊後国萩原へ配流也忠直卿の男女子息二人　嫡男光長は越後　二女は高松好仁親王室　三男は中納言康良院
配所にて法体得度ありて石(?)帰(?)ありて雉髪ありて号を一伯

此所ニ府内ハあさしとて森家より三里隔て有る津出ハ移る
此時日根野ニ居る 備中 仙石忠政 後ニ改易 牧野忠成 月付して志らす勤
青乃忠直配所ニて生男女三人、一ハ永見長良 市正 二ハ永見長頼
越大殿 三ハ女 忠直卿配所の後三人共ニ越前ニ来り光長の介力となりて彼配所ニ居る後と板家ニて叔母と称せり女ハ小栗美作守室
と号、慶長三戊戌年九月十日出生 年廿六也 一説年六十 法名西巌院殿 相誉連友大居士と称す
忠直配流以後越前室国となる故ニ忠昌 伊予守 此時越後高田ニて拾万石 兄
の家督を受て福井城ハ移る叙任従三位宰相又忠直嫡男仙千代
丸 後号光長 其頃十歳ニ成ける時ハ高田ニ移り一旦ハ福井城ニ居るに
ハ忠昌越前を賜りけれは其跡越後ニて高田城ニて四拾万石 寛永元年ニて田厚

仙千代丸二十六万石 紀合元 二十六万石 備り給ふて寛永元甲子年六月ニて田厚光
仙千代丸ハ福井を出て江戸ハ赴く越中の諸士ハ同月ニ
二月より越前とて七月其ニ越後ハ移り所て仙千代丸成長
以後黒田従四位下左近衛権少将任越後守光長自
大御所中で御縁り孫長光ハ家忠也寛永卯年十二月左近衛中将
任左近衛権中将天和二壬戌年迄是相共九年越後を治ら
ましハ其後家中騒動の事有て其家断絶しけり 家中騒動
の事ハ越後騒動記ニ見ゆ
私云元禄年間松平出羽守綱昌 大和二男長知 後号 一備前守綱昌 ニ

城主方石自　文暦元年駿河国ヲ賜ハリ敵任徒也任少給置誠
後世竟帰誠後数無異心ニ任ヒ宣富世移年去
月日ハ其男某（清文）　家督ニ成ル　其也ハ任ル
又拾年知行ヲ新ニ　其男某ニ　家督ニ成ル　其也ハ任ル
次ニ方石儲リ時　主従年
五拾貫石　駿河ヲ治ル国主
後府哲成　駿河大納言忠長
忠長ハ　台徳公ノ男子ニテ　大猷公ノ中也　幼名国千代ニ中決
御子ニ　大猷公ハ水戸ノ中ニ　諸事ニ忠長ハ　且ハ病ヲ
又国千代ハ生質優ル　智勝ル　台徳公ハ
世ニ優ル　天下ヲ譲ル　台徳公
神君御対面ノ時　行年代ハ　天下ヲ治ル
ヲ国千代ハ　大時ノ　天下ヲ代ル
譲ル　代ハ　国治ル
譲ル　神君国治ヲ　譲ル　世紀
譲ル　治ヲ　経歴ヲ
譲ル　治ヲ　治ヲ　事ヲ
治ヲ　譲ル　郷ヲ
譲ル　其ヲ　治ヲ　ヲ
譲ル　其ヲ　治ヲ　ヲ

[illegible]の[illegible]ふ[illegible]と[illegible]を[illegible]ふ[illegible]張[illegible]悪事[illegible]と[illegible]事[illegible]り武田
信義[illegible]の事[illegible]て者[illegible]絶[illegible]只[illegible]文[illegible]の間[illegible]豊一[illegible]の勢[illegible]り[illegible]
[illegible]大[illegible]文[illegible]の[illegible]極[illegible]ふ知聞し[illegible]て心[illegible]ふ[illegible]事[illegible]り[illegible]ふ面[illegible]て
[illegible]の[illegible]人[illegible]て[illegible]ふ遠知出来[illegible]悪事[illegible]ふ[illegible]自作
[illegible]代[illegible]ふ[illegible]絶将軍[illegible]なる[illegible]平[illegible]ふ[illegible]り[illegible]代[illegible]ふ世[illegible]張り
[illegible]ふ心[illegible]　上[illegible]也[illegible]故に　大敵[illegible]沖張り[illegible]ふ[illegible]業[illegible]も
神[illegible]水[illegible]目[illegible]の[illegible]ふ[illegible]明[illegible]と[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]代[illegible]元知三[illegible]
年初[illegible]伝列[illegible]ふ[illegible]り十[illegible]方石[illegible]せり豊四年[illegible]年加御
十[illegible]石[illegible]後甲列府中城同[illegible]年八月[illegible]任参[illegible]伝下兼

[illegible]伝[illegible]接中[illegible]ふ[illegible]月九[illegible]変来七月[illegible]を従三位接中納言[illegible]後後
遠[illegible]列兵甲列の[illegible]ふ[illegible]り当[illegible]ふ移[illegible]又[illegible]元永三[illegible]年八月
叙従二位接大納言[illegible]法人[illegible]事[illegible]法[illegible]て[illegible]悪長天下[illegible]張ら
[illegible]事[illegible]源八郎[illegible]強[illegible]の志[illegible]ふ[illegible]云り[illegible]元[illegible]要御四位[illegible]
[illegible]の[illegible]と　伝雅の孫女兵部卿伝長の妻世に[illegible]介[illegible]の間ふ[illegible]安[illegible]
[illegible]　[illegible]ふ[illegible]悪[illegible]長[illegible]害の[illegible]変[illegible]て[illegible]元院と[illegible]
[illegible]永七[illegible]年[illegible]ふ悪長[illegible]ふ[illegible]月[illegible]日[illegible]法[illegible]と[illegible]
ふ[illegible]地源[illegible]ふ[illegible]猿[illegible]ふ[illegible]と[illegible]狩ふ[illegible]ふ[illegible]
猿狩[illegible]西[illegible]変[illegible]一[illegible]ふ[illegible]法[illegible]土[illegible]を[illegible]用[illegible]用[illegible]
水[illegible]中[illegible]ふ[illegible]一[illegible]時[illegible]者[illegible]宣[illegible]　[illegible]後[illegible]今[illegible]成[illegible]行[illegible]法[illegible]一[illegible]ふ[illegible]

ふ彼方ハ仕寄より鉄砲打ふせ東ハ海同大筋大山形し
ゐ之ハ彼方ハ仕寄より鉄砲打ふせ西ハ岳長寺と海ハ
ふ而敵ハ四方ハ第一の順地ふ之高地に拵の地ふ敵人
の地ふ陣ハ敵ハ之ハ陣ハ同の岳長寺ハ方ハ敵ハ
陣ハ之ハ陣ハ之ハ陣ハ西ハ退ハ方ハ之ハ同月十
一日攻撃ハ之ハ方ハ敵ハ敵ハ人ハ元ハ敵ハ人ハ彼方ハ入て
寄ハ一ハ之ハ小列ハ之ハ配ハ伝ハ一同ハ之ハ寄ハ之ハ寄ハ
き寄ハ之ハ打ハ攻撃ハ事ハ十二日ハ早ハ也ハ岳長ハ方ハ
ふ之ハ敵ハ之ハ敵ハ方ハ之ハ心神同ハ之ハ方ハ攻寄ハ中ハ

駕寄ハ之ハ刺ハ之ハ拵ハ方ハ彼ハ方ハ驚ハ之ハ進ハ之ハ岳長
ハ之ハ寄ハ之ハ敵ハ之ハ退ハ之ハ岳ハ敵ハ之ハ寄ハ
近ハ方ハ煙ハ之ハ科ハ報ハ之ハ敵ハ之ハ或ハ奥ハ方ハ入ハ
ハ中ハ之ハ掠ハ之ハ長ハ方ハ行ハ掠ハ之ハ酒ハ也ハ之ハ
同十二日ハ之ハ長ハ方ハ之ハ物ハ敵ハ之ハ長ハ方ハ
ハ天ハ雲ハ風ハ之ハ強ハ之ハ方ハ之ハ之ハ面ハ之ハ人ハ之ハ岳長ハ
ハ之ハ時ハ山ハ之ハ山ハ之ハ馬ハ之ハ赤ハ月ハ一ハ町ハ之ハ陣ハ
ハ之ハ彼ハ方ハ之ハ陣ハ之ハ長七ハ郎ハ之ハ焼ハ之ハ中ハ仕
ハ軍ハ之ハ新ハ之ハ方ハ之ハ方ハ之ハ影ハ之ハ敵ハ方ハ之ハ

燃とて卯年まとをくして焼失烟中にて影一大不移忠長の
大の不燃いとて卯の心をも不用仕也とて二つ一にも不云力を強く
とて卯のをくと燃中へ計為し佐佐月月の者ふ死数て元和と
行ふ法を為為為面者ふ〻ふ〻ふ為為おく其死数と後ふ人て
おし〻且長弾と掃除ふ忠長又大〻と焼〻〻とふ法水取
て焼人とまりて前ふ不燃法ふ〻ふ〻ふ為ら〻ふ
と云ひしふ行事もなく又名所城也と柘の悪門一と達へ
上六年敬忍ふ勅事ふ書り而ふ百人甲列一通墨也其ふ
名徳ふ不何也　大敵ふ忠長の内御事と思ふ事ひ〻ふ内
証行ふ長ふ不成〻〻ふ〻ふ今度の内
福寺高宗〻ふ長ふ也ふ御夫忠長事御免ふ成ふ福中
の中月長人ふ御月ふ下ふ一と無之宮ふ　名徳ふ内御ふ行
行ふ長ふ返言ふ〻ふ松ふ知ふ一通の文を内ふ〻ふ見ふ〻ふ
上ふ也　大敵ふ長ふ久ふ後〻ふ一ふ内ふ〻ふ夫ふ忠長の事
ふ諸話ふ〻〻　長文い　名徳ふ忠長月番の弥吸ふ文ふ〻ふ内ふ列数列
の知行ふ宮ふ内ふ在ふ但〻ふ言ふ〻ふ也番四ふて強
将軍ふ内ふ〻ふ人宮ふ信ふ〻ふ　同上
強の後
ふなり　忠長ふ文ふ上ふ〻ふ部ふ領ふ〻ふ内ふ行ふ〻ふ
内ふ年ふ月ふ〻ふ〻ふ長ふ上ふ〻ふ北の悪行日ふ義ふ〻ふ故同九年

壬申十月六日三條の大納言殿ゟ仰ス〳〵生害　年二十九　法名宗美院殿
時徴暁雲居士

二万五千石　　遠江掛川城ヲ　　朝倉孫次郎宣重

宣重ハ長兄義行天皇ゟ出天皇の後流日本記朝日貞京尚
裔也貞京ハ朝廷ハ仕ヘ文明三辛卯年始〳〵筑前ヲ帰ハの所
ハ居住〳〵而死長男宗淳ハ二男孝景ハ孝景嗣子清会
家ヲ継ぎ家ハ伝長ゟ当ヲ年ハ経ハ天正元癸酉年八月二日
迄居の而ハ数度ヲ戦ヲ事ハ朝倉氏ハ見ヲ又家ヲ滅ヲ男
男宗ヲ当時ハ織田ヲ家ヲ退隠ハ而家ヲ中村一氏武蔵守ハ補
ハ仕ヘ安部郡ヲ居ヲ中村氏ハ後故ハ〳〵　神君ハ仕ハ元和

六庚申年年年十一也男子宣宗ハ後ハ筑後守ハ宣宗ハ仕列ヲ四合
戦ハ　名儒ヲ従奉〳〵て天正十三年乙酉十二月家ヲ戦功有
大年の後政所ヲ命セラル其後忠長後宣の為ヲ仕ハ宣
宗武勇の為なり故傳門ハ命セラル福島城順二万石和二万石
家加増一万石ヲ従ヲて忠長の悪行違　上国ヲ生害ハ仕ハ宣宗ヲ
石田治部長ヲ煩ヲ事行為なり従ヲ誅ヲ仕ヲ為ヲ故ヲ
而ハ家ハ石俸ヲ隠地ヲ石ヲ也男ハ寛永十四丁丑二月年ヲ
年六十四也長男朝倉氏ヲ名ヲ也ハ家ヲ長十九甲午年ヲ牧野
成宗ヲ為　大坂ハ部ヲ出双の三ヲ石ハ〳〵て伊藤ヲ石出ル石流

上成長後ハ隠居ト成叙位任官共信下石見守ニ成書ニ成
寛永十六年江戸町奉行ト成命長後病死也嫡男一定
仕ハ次男定朝新十郎也　定朝ハ継定朝ハ別ニ侍職ニ御
奉仕せり

三万石

甲州谷村城ニ

吉長法名右衛門佐ト成行
成行ハ長元忠ト云ハ弟ニ源成次ニ依テ初
久之助ト云ハ　ト成情懸ニ有
四郎ト云ハ又ハ源成次ハ兄ニ御成次ハ御譜代ニ御
武陣ニ使ヒ行ニ勢ハ多ク寡ク成ル
伏見殿命ニ恩ヲ蒙ル成次ハ成文ノ親ナリ

名命ノ恩ヲ蒙ル成次ハ成陣ハ出ノ勢ヲ率ハ返上ハ
中ハ　神君長沢ハ帰ル事ト感シ　ハ長後忠長ハ甲列
ヲ率ハ時成次ハ成文ハ時軍ヲ率ハ甲列ト称ハ
御ハ知ハ国政ニ長ハ沢ニ御ヲ法ハ法ハ御ハ
ハ国法ハ御ハ彩ハ法ハ法ハ世ハ長国ハ代ハ家ハ
ハ長ハ国ハ時軍ハ所ハ長ハ事ハ御ハ御ハ
成次　上ハ御ハ長後ハ叙位従ハ任ハ下ハ信ハ成次ハ
ハ長ハ補佐ハ国中静謐ハ治ハ設ハ国ハ御ハ近ハ
日ハ美濃ハ長後病死ハ嫡男成行ハ久之助ハ

台徳公召ニ而も亦如父忠長を補佐ましくしと　上意ニ而叙
任従四位下讃岐守ト成所謂ハ文ニ而不智補佐ト云
謂也忠長ハ年より賊ニ而不行跡ニ成諫言も不用寛活所
且不自威所も年寄衆所行且威勢ニ出而く諫言莫且不能
中故忠長程も悪行増長し終ニ此御家を亡し給ふ所哉
所を知る右傍又右佐守ハ忠長ニ附副由政定紀し無益之ニ
て迚　上聞故色取合ニ迚如く身ニ及て政法大ニ誤り事一
右長の不覚也も身之門之く不依去不当ニ知る右保之候
知恵右之通塞元佐附之井上正利ら　河内　浮説也　正利の是ハ成行帰之且忠懸まて妻伽正利書之

と
也

二拾四万石　陸奥岩城領之　・　鳥居左京亮忠恒

忠恒ハ鳥居元忠孫忠政（左京亮　出羽守）嫡男也元忠之伏見城討死
の後　神君忠政を召出さるの　上意の上ニ家督を命せらる且
後加増して十万石賜之（于時元忠ハ下総矢作四万石領ス今加増六万石ニ元忠の父伊賀守元信なり）　又福
出羽山形城大坂安房の役ニ戦功有故に移し而城加増十万石
合前二十四万石　寛永三年　未年八月九日叙従四位下侍従（元和元侍従五位下）　同五
戊辰年九月六日卒去　年六十三　也嫡男忠恒（左京亮）家督継之出羽守卒去
也其子故所領ニ於召上らる舎弟是は所之忠春ニ於石加増信

列して武蔵にて弐千石を去年去の後男某左京亮越後にて代々
に居地に在て其子孫代の事後年所謂ふ季
不知
松平武蔵守に安芸の男忠右左京亮代に居地一万弐千石を上ル
知にて還城三万石在常卒して男忠校播州より後越後にて
文昭公元徳元辛卯年若年中に命下加増六万石拝下野壬生
城主英校初忠卒後去月ち丹波家督して生住
石弐万石
蒲生飛騨守秀行
秀行ハ其先天児屋根命十九代の裔藤原鎌足の十六代藤原秀郷
鎮守府将軍武蔵守号田原藤太又俵藤太と呼ぶ田原俵和州同き故に俵と江州
瀬田橋之竜神に頼まれ蜈蚣を射殺せし時竜宮より賜りの宝物を送りし
因に俵もなりし其中の第二大小宝俵よりの其器に俵と称し
こちらの宝信長外宝物の事人口に絵具あり記して後胤也秀郷の
男千代人嫡男千国左京次男吹三男千晴三郎小山長沼也男千常左衛門尉
也千常より六代蒲生左衛門惟俊蒲生左衛門の代に居城を細川
祖
列蒲生郡近江蒲生日野の故蒲生館に城を築く居
幕府に従ふ之落惟俊男俊賢蒲生左衛門頼七代の孫秀朝
一族ハ落の丸組合に仕ふ
蒲生家仕秀朝七代裔貞秀蒲生家後離散して号知宗武藝に長し又和歌の達人也
足利尊氏
秀左兵衛佐賢秀生氏郷飛騨守氏郷に秀吉に仕へ所々の戦場にて
当軍功天正十二甲申年伊勢松ヶ島城十二万石後会津に移り九十二万石一統に初め六十万石加増

也と云
越也と

同十八庚子年尚氏合戦ハ首軍功ハ二奥列今津志
摂城二千万石同十九辛卯年同志九月二日ハ氏郷
氏郷九戸と攻むさと本村修理同出伯
助ハ十時又右衛門ハ秀吉ハ感ハ備今津伯屋白河表
明列来ハ領百万石ハ上来ハ徒ハ作業相ハ石田ハ
大家ハ企ハ云ハ氏郷ハ氏家ハ上杉景勝ハ
出羽来ハ謀ハ謀ハ帰ハ氏郷ハ方ハ氏郷ハ来ハ金ハ
食物ハ来ハ又ハ進ハ忍ハ謀ハ謀ハ辛丑年也十也
千時文禄四ハ来
年二月十七日

四月秀俱 慶平代九年十三
世蔵田信長長安 秀吉ハ十時秀吉ハ氏郷ハ
ハ田ハ来ハ氏郷ハ進

国の大名ハ秀俱ハ左衛門ハ
ハ秀吉ハ来書ハ陽ハ
且ハ後秀俱ハ秀吉ハ陳陽ハ
ハ十時秀吉ハ来ハ服ハ葉ハ
秀俱 後改 長行ハ来叙位後ハ十能源寺ハ進従四位侍従 年十七 其
後従秀吉命家 神君ハ於ハ秀吉 神君ハ来ハ秀
行ハ来ハ下ハ時ハ十ハ陳国ハ国政事ハ安藤
心ハ云ハ三成軍ハ大勝ハ伊達ハ辛ハ家ハ
蒲生氏郷ハ天下ハ物ハ云ハ秀行 家康ハ
三成ハ秀吉ハ行ハ来ハ日本ハ来ハ遠ハ
家康ハ云ハ事ハ容易ハ陳ハ秀行ハ

其枝を絶へしと云ひ秀行の家臣蒲生四郎兵衛を始として悪
党を語らし会津家中の仕置其外諸事ハ其方心得ままに
御治めあるへき旨上意也しと申渡し密に右答の品書下を留
おしくて去年より四郎兵衛大に悦ひ会津へ帰り右の品を大悪
ニ至りて非道を振ひ日頃遺恨有る者ども心の儘に行ひける
故に而て右の事家士大将町野城内にて数度其外忠臣
行ふ事迄君又ハ忠家中諸勤仕候之蒲生源左衛門初段
代の家臣深く思ひけれ共　神君へ委細に申　神君能く聞召
秀行家督に於いての処殊に申上けれは安堵ニ被下故委細を答

一旦御立腹ありしも驚給ひ会津の諸士をも召されて其始末を尋ありしに四
郎兵衛ハ悪事露顕に及ひ加藤清正へ肥後へ預け給ふ也
　（此時清正朝鮮より帰陣ありし故也）
　（御預に仕る／と伝へしとぞ）
其上当時悪しく取計ひし輩の罪の軽重に随ひ或ハ
首を刎或ハ諸士追放也依て秀行ハ不知にて徳善院蒲生郷成に
成り事を預け家中を静め家督を治めける也左様に家中を治め
家中諸勤仕候事ハ其後起の基也故に会津の守護職を蒲生へ
右依て初めの如く会津を安堵し蒲生郷成宇都宮城主に任け
其蒲生長政後ハ又是より之有りて右様に候也秀行謹んて是
謹しみて節烈に備へ申さるる事後年秀行の家の誉也

神君ノ命ニ依テ故ニ長六年世年八月再ビ伊勢国津城六十万石ヲ賜フ従
二位宰相因ニ十七正子年五月十三日卒去年也男忠輝ノ跡ヲ
台徳公ヨリ御下ニ成ル元和年ノ称号ニ伊勢ノ号ハ年ノ野ニ長盛
従二位宰相ニ寛永四丁卯年正月四日肥後ニ移ル卒去年五十五也
為御子ニ従位知行ニ成ル故ニ長盛ノ跡絶ヘシ
為知ノ為ニ因ノ中ナリ 故ニ略ス也 故ニ出羽侍従知行山城二十万石 台徳公御
一字ハ年ノ称号ニ賜リ号ハ年中務大輔ニ成ル長十八歳世年
叙従四位下元和九癸亥年
寛永ノ御代従四位下ニ成ル
八月八日任侍従ナリ 因ニ十年甲戌年ニ十ノ卒去年也 時
為知ノ室懐妊ノ由ニ成ル故ニ男子ナリシ為ニ編ノ如ク

男子誕生ノ御ニ 上意也 長盛ノ為ニ行ル跡目ノ
世ナリシ 為知ノ室ハ因ニ強セリ 為知室ハ因ノ政長ノ也 寛永世年
年七月廿三日ニ強ス 蒲生ニ従ル故ニ又ハ
元禄十三庚辰年六月廿三日卒去年八十七歳
ハ蒲生氏郷ノ先祖ヨリ為知迄
ハ豊臣秀吉ノ故略ス 蒲生氏郷先祖ヨリ為知迄
記ス 見ルベシ 別軍記ハ略也

文元策拾遺巻之拾四

三拾七万四千七百石　紀伊和歌山城主

濃野濃正少弼長政

長政ハ其父清和天皇の後胤也と云り父ハ濃野又左衛門長勝と云信長ヲ流也（尾州中村々小右衛門と云伝ふ長勝ハ故郷を離れ家利を求め人養育して女子ハ秀吉一族ハ四郎右衛門と称し清長政ハ書しと云）と云一説ハ長勝ハ家利の幸なりとも云ふ　長勝也長政（濃野清長号濃野加賀）長政信長ハ仕へ秀吉と共に京都法度代を勤む伝長政秀吉に仕へ江州志津嶽其外合戦ハ武功ハ多し故江州坂本城主と成（先年江州之庫城を色目長政冊列之列へ移り官位の羅を経て月日上加賀国廣美郡の事と多数ハ長ハ器と）其後甲州府中へ移る（千石付二万石付）此時出羽行の法ハ一ハ多く法令事等私なく載作ハ是秀吉ヲ

神君初業の時長政主人の為事を勤て秀吉公を見奉
り長政親子共に相応に御馳走の事有之候
神君御忠勤一通大方の通り一筆の御
時戦功有之 神君御忠勤の為に成長政の忠勤
十月朔日加増十万石宛 合高三十七万四千石宛 南城の移り且男信長 右京亮 文
禄元年朝鮮へ渡海 軍功有之 于時十八歳 天正四丙子年生 筑前侯御軍功
有り諸侯御見届 寄長六年 長政 参長六年 慶長六年 辛丑 十六
世間八歳 年 八月朔日 信長卒去 年三十八 嫡男 右京亮 信長 人
有り 長女 嫁 松平武蔵守忠吉 次女 嫁 蒲生忠郎氏郷 男子 故 小平長盛 但馬 家督 長盛初 伯耆守
二万四千石宛 一説に二万石宛の
歟 後に二万石宛 大坂表の役に戦功有之 御所蔵
状に御感 元和五 未年 福島左衛門大夫
移り加増五万石宛 合高四十二万石 元和九 癸亥年九月朔日 辛丑 年四十七
世男 光長 幼名岩松丸 元和七 己未年八月十二日 紀州へ 家督 永四 丁卯年江戸へ
帰 大猷公御代元服 松平 称号 光長 次男 松平 光長
光長 号 出羽侯 松平 大膳 信長 但馬 信長 安房 信長 出羽 世
今に繁昌也
光長 小祐号 出羽 家 初 光長 初 武田伝
云の如世容儀麗 秋 家 歳 弟 伝 養 志

神尾の妻ハ下山の出 市と云 男女の内子弐人出生也 妻女ハ蒲生
秀行ハ嫡男弐人出生 長男ハ松平下野守忠郷 二男ハ松平中務大輔忠知 二女ハ加藤肥後守忠廣
ニ嫁ス同肥後守 次男ハ武田信吉 万千代也 岩清院 小笠 秀行卒去後彼
光政母なり
室也 台徳公養女ニ成 来長殿ハ嫡孫ナリ 元和二年 同二年光
殿を生給ふ 彦後卒去也 天和三年八月九日 後ハ光殿ハ 神尾の内孫
ニて 台徳公の御孫 大猷公の御従弟也 付而格別ニ御懇ニ成
しらひ也
廿万石 。 。 安藝 浅野因幡守長治
長治ハ長晟 但馬守 の長子也 然るニ庶腹なりし故 家督を継紀公
也実子なく長治ハ今綱光晟 紀伊守 次男長尚 和泉守 を養子
として長尚早世ニ依而 養長照 式部少輔 光晟男 家督を譲り 長照又養子綱
晟 浮丘 次男長澄 土佐守 を養子として 家督を譲り 長澄家督 長
経 兵部大輔 而六十七歳ニ而 卒去 故其家絶たり
二万石 近江坂本城主 松原七郎左衛門家頃
家頃ハ其先大相国清盛之 小松内府重盛之末孫 小松内大臣 重盛 生
維盛之 三位中将 維盛之忠秀衛 秀衛生光衛 松原治部少輔 松原家の祖也 光衛の四代
松原家利 七郎左衛門 家利の男家頃 七郎左衛門 嫡として 丹波稲荷郡を賜ひ 二万石を領
し 天正十一癸未年 橋国城を給 所領代勤 同十二甲申年九月

九日卒ス年六十七也法名清房 子長房 次弟部昌房 長房ハ年十三ヨリ上杉
謙信ニ云而知行弐千六百貫 叙位御書ヲ以出仕播磨ヲ西代
四郎盛次ヲ任但馬守 長房ハ後丹波ニ移ル 今年長房ハ
神尾ハ所属ス 子長房 也年常陸新治郡山崎城主石上播
合高二万五千石 寛永六巳年二月六日卒ス年六十六 也男重長 御書ヲ以小浦ヲ与ス 或ハ一説ニ故ノ如シ云
部昌房 寛永七庚申年十二月九日 叙従五位下 任御書ヲ以 時石高 二万保
元甲申年十月二日卒ス年二十九 子長房 実子無ク故仙中主元 第四仙中主元ノ子ニ男
也養子トシテ部昌房ヲ養ス 長房ハ義兵二年十月ニ主元卒ス
年十七 也主元ヨリ長男ニ部昌房ヲ給ス

二千五百石

常陸小田城ヲ

武田百千代丸信吉

信吉ハ 神尾第八ノ次男也 世云ハ武田信吉ヲ小田ヲ称ス 故ニ小田
氏信吉ヲ用ヒ信吉ヲ婿ト為シ改姓ス 俗ニ御屋婿ト称ス
名跡順十万石ヲ与ス長七年十月加増十万石 合高九万石 移高城
ヲ与ス 同八年甲申年九月十日卒ス年一 也 大名制ニ入ル 徳川
相模国 当城ニ入ル 同十四年後河府中城ニ移ル 其
後紀伊和歌山城ニ移ル 今小浦警衛也

五万石

仙中城ヲ移城ス

山崎甲斐守家治

家治ハ其先ハ小浦家後ニ部昌房ヲ養子ト為ス 部昌房ハ
城ノ時ニ天下平治ノ時迄数度ノ合戦ニ信吉ニ従ヒ軍功ヲ

故南城之と成寛永十八年忠秋侯列先祖一移り新小城を築
き　吾子老妻女子辛苦也男部落部落に付事動
鮮由小藤右衛門中奥守辛後男亀之助少輔辛苦
知少故金銀多く其家に残り其中叙文神田家知小使中成府の
用ふる所なり也
一説小家僕小山橋宗隆右衛門と号し兵庫小仕一万石を
以て右田氏の附属列陣城攻の時出奮せしか家臣彼を
耳と城を捨て逐電し其後之細なる小高家屋
敷を建むとすり又云小橋宗隆右衛門小家僕の

[illegible]
二万石　・　情列伝用部　松平石見守輝澄
輝澄小池田輝政之孫也母小神君の市姫君なり輝澄小
幼少なる松平の称号を得る長十八歳世嗣刑部氏
二万石を賜元和九癸亥年四月廿五日辛去
なり之部家の後を利政して石入と号寛文二壬子
年四月十九日辛去　年五十九　也其部家の附属地は残り石上総
当侯の弟政重に新発小一万石賜る寛文年十
二月廿八日叙位侍従に任ず延宝元癸丑年十二月廿日辛去

年ニ十二 也政出ヲ行キ故ニ政武ハ年久シク三助ト七千石ニ成推ス者ト云フ子
石ヲ分ケ伊勢守ニ与ヘシ故也

七万石 伊勢神戸城ヲ押収物出盛也

出盛ハ伊兵室子ノ後嗣ノ時ニ出羽ノ国ニ通信ヲ出ス也通信ヲ八代
目商義ノ通信ヲ出ス 通信ヲ出ス故ニ物ヲ出ス酬ノ
費ヲ長シ出ス故ニ世ノ算ヲ出ス故ニ彼氏賞ヲ授ケ一柳氏ニ源姓
ヲ授ケ通出孫一柳出来市ト云ヒ故ニ長俊ト云ヒ流浪ス
ハ出来ハ伝長一屈シ伝長後度ヲ奏ス者ハ伝ヲ天正十二甲
年伊勢守ニ義成也ハ三万石 南部ハ南部二万石ニ年ヲ長ス者ハ出羽ナリ 叙任ス

世伝ヲ伝ヲ出ス故ニ十八度ヲ年出来ス会戦ハ出来ハ山中ハ城ヲ攻ル
後ハ死ス者ハ出来ハ御ト感シ討死ス情ヲ二千騎ヲ以テ事出
望ス者ヲ叙任ス後ハ伝ヲ大望ス物費ス後 神ヲ屈ス石
ハ小戦功ハ義年ノ後後嗣成加ハ四万石 合為万石 大坂ヲ攻
ハ伝ヲ戦功出陵ス年ヲ也男子ハ人ノ自長ヲ出ス 邪後ス 次男
出利ス也出盛ス病中死ス出ス国伝ヲ出ス先祖代ヲ
仮国ハ指伝ヲ日伝ス年御長ハ人ヲ嫡列ヲ下ス秘死ス
出ス名迷ヲ出ス伝ヲ年後迷ヲ云ハ伝ヲ物ヲ二万石
千石伝極西源氏 邪 山ヲ物ヲ次男出利 二万石 伝兵川ノ上 二万石

播州小野ニて七万五千石賜り於嫡男直重丹後家督として一七後家督左近
男子三人有嫡子直興 監物家督三万石次男直家五千石
御り於つ女ゝ直興家 林不妻衣家清服ゝ子孫の今衣並清家
然の後為体悪在所へ由服候り在所へ御目見後 林不妻衣
移徙の時合ゝ放衣家清不如く申し仕置以衣御機嫌ゝ山城ゝ
京都へ罷出直興ゝ上洛仕つゝ事也直興御法の儀も悪敷且
衣家清中不作法不行跡ゝゝ其者不宜趣意所国の一両輩
小事ゝ論り前ゝ衣国窮させ私欲深き所業 上聞ニ達
寛文五乙巳年七月廿九日直興御評定所へ召ゝ衣家中取目
付衣別置 上意の趣ゝ仰渡所領不残没収 加賀松平綱紀ゝ
ゝ御預也
一柳美作守直家 伊予川之江二万石 播州小野一万五千石 三万五千石
直家ハ直盛監物次男也直盛逝去ニ付其所領を分り於配て
播州川の江ニて城絶宮の事と致し不叶事故に付内
小磯ゝ方川ゝ辛去之時ニ男子なき故ニ山立直次 宇右衛門 伊勢 当吉就娶
也 聟舎年養子ニ仕度願病ニ付ゝ致し候処事不
中ゝ段故直家ゝ領知不残召上御法度之通り事不
被下置候の通婚養子ニ被仰付新知一万石直次ニ被仰付候

よしなり
私云忠政ハ今の忠勝ニ依祖父之忠興ハ今の小柳
橋之助殿也

二万石　上野安中城主　水野信濃守元知

元知ハ元綴ニ出羽守男也元禄当城主となり表の役相仕しを
判断しく乱心と号し寛文七丁未年十月十二日男元知信濃守
家督ハ水野出羽守忠吉舎弟元知為人ハ愛情深くして忠武なる士を相
倉せり然るに其夫人嫉妬深く常ニ元知を妬む元知も
離別せんと思ひ一日ことと思して下年生邑の紙ニ包ミて何人

ニ語夫人元知寝中ニて突入と枕集の日夜寝所ニおける
所作夫人大ニ情とて其後気病して元知狂気ニして奥へ
入夫人懐剱ニ切込て元知を判候得ハ底深く志らさる死亡
知不思事故思表ハされ城内外大に騒動ニ付元知乱
心せる様ニ申しハ寛文七丁未年水野志摩守出羽守一本ニ
なら候知出石ニ被下納まるこ御座候て

二万石　豊後府内城主　日根野織部正吉明

吉明ハ高吉織部正子也高吉ハ秀吉公ニ仕へ鉄砲ニて軍
功あり依之初て信州ニ而高遠二万八千石を賜ふ秀吉没後

神君ハ屬して卒去也男吉信家康敵任從ハ下總ハ
給ハ秀長上ハ辛亥年故ありて駿河ハ
下野上ハ武蔵ハ永十八年ニ年加増ハ
中ハ年　月　日卒去ハ今剛なりハ其家ハ給ハ

三万石　遠江横川城ハ　小條出羽守氏重

氏重ハ其先桓武天皇後裔ハ為ハ代々伊勢ハ
將軍ハ数代仕ハ其後伊勢氏茂伊勢の時ハ利勢
徳成ハ長ハ京都ハ退き伊勢ハ新九郎ハ
此天下擾乱ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ

三万石　遠江横川城ハ　小條出羽守氏重

氏重ハ其先桓武天皇後裔ハ為ハ代々伊勢ハ
將軍ハ数代仕ハ其後伊勢氏茂伊勢の時ハ利勢
徳成ハ長ハ京都ハ退き伊勢ハ新九郎ハ
此天下擾乱ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ

[illegible]ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ
ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ長ハ氏綱ハ

三河刈谷に移る其後文禄元壬辰年十一月七日秀吉公忠重を大将に
任し對面し西國の方へ下る時忠重と共に出て従ひ給ふ此忠
重病に伏して卒去 年十二 嫡子長男其年忠成 又氏信 左京大夫 此家福岡ノ緒
成 上総介守 相州玉縄の城に居 此の人玉縄 氏刻川越守軍に
福岡と称す 後と称す
前代の例にしたかひ其後氏を小田原に移し居る所卒去之 従成元 物ハ色
黄地に志ろく八幡宮と書たりけ其由緒は用路を記して
出て其の紋は其地ハ幡宮を号として名を成りけり 男氏繁
外 家を継康成と改む 氏康 年七 康成男の子二人を生む 長
子は氏勝 左衛門大夫 此時陣所ニ氏勝ハ氏忠の弟
なり 後陰陽より 其後天正十八年氏忠三河野小夫時陰陽に 其弟
北条へ降参せり 後浪人し住ケ勝一万二千石 後玉縄卒

忠也氏勝の弟子故保科家 譚正忠 出羽守 其養子として別家相続従五
位下出羽守氏重 寛永十七庚辰年加増一万石 下総関宿城に移り
正保元甲申年加増二千石 遠江浜松城 寛文元 戊子年加増 七千石
移る 奥州磐城 川城 都合 二万石 万治元 戊戌年十一月朔日卒去 氏重が嗣
家 氏重女子一人有る 其婿 雄の中山城守 氏重の
故に絶也 家断絶の後 本多 領地 同家にわたりて
二万五千石 備中松山城主 池田出雲守長常
長常ハ池田信輝弟 紀伊守 孫長吉 備中守 嫡子也 長吉ハ石田丸の時輝政
と共に勤仕し 江州水口 勢州亀山の城を 賜る 関ヶ原の後 討死にて
忠を以ての故に 家を継ぎ 後備中一万石 因幡鳥取城を賜ふて

元和元乙卯年大坂役小戦功ノ賞ニ
千石 移封城宮永九壬申年十月十日ニ
出羽国ニ
寛文二壬寅年九月六日ニ
弘安信濃守殿政長ニ
一万石
播磨新宮城主
池田又八郎義時
義時ハ其先祖祖父ハ池田宗政
代ニ而一万五千石ヲ領シ
弘安信濃守殿政長ニ
ニ方石ヲ以男義政ヲ
弘安治右衛門ハ
寛文二壬寅年ニ
年二月也
ニ而死ス
弘安治右衛門ハ
一
一
一

輝元ハ隠岐迄ハ他人ニ遣ス事不忠ニ成
御ハ禄退ル事ハ家ニハ有ル間敷
ト言より先ニ遣ス秀秋ニ与ス
おろく事ハ京ニ裏住ス事ニ成
る秀秋ニ御ハ家ニ残リ中納言ト
中ハ秀吉太閤ノ弟ニ成ル
て秀吉ハ子ノ内ニ子ノ内ニ
京住ハ別家ニ残ス
絶ル筋ニ三拾三万六千石ニ
家ニ成ル

家ニ成ル

家ニ成ル

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ハ大家ト為シ知ラレタル者ニ芝ハ三成ヲ私ニ
推薦シ[illegible]御先ヲ斥ケ[illegible]時ハ[illegible]ニ[illegible]
[illegible]大坂ニ留メ[illegible]ハ其実ハ三人ノ[illegible]軍律ニモ世ノ
風俗ト称シテ[illegible]合保養ノ為ニ[illegible]
[illegible]日ニ[illegible]三成見テ[illegible]
ノ城ト成サセ[illegible]其実ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]三成ニ[illegible]ハ[illegible]
天下ノ権柄ヲ握ル[illegible]ノ[illegible]

[illegible]三成ヲ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

[illegible]なり[illegible]に対して[illegible]秋
任義して[illegible]伏見に[illegible]
しら　神[illegible]の[illegible]人[illegible]心[illegible]
く[illegible]
[illegible]遣[illegible]
[illegible]
より[illegible]
[illegible]　神[illegible]
[illegible]

[illegible]秋の軍功[illegible]
の軍功[illegible]
[illegible]の養子[illegible]
[illegible]
[illegible]

内閣文庫

まし九月十四日門倉之子時長秋ハ使ヒとして薬を中ニ
敵軍ニ中ハ必義仙仕ラ（長秋の家ハ善隆山ヲ根
煙と命揚ラ〳〵まとゝ拙尾山ヲ切て下りハ
果人数の下ハ白軍と射合の三ツ組ハ中ニ
陽坂家臣中野左衛門山川祐忠ヲ拓本利綱ハ
善ヲ右連判の誓紙ヲ以て長秋ハ神義ハ
長義切ハ逃ル忠実ヲ人この時ニ伯九日十四日敵味方ニ
百人余ニ人出陣ハ付出業又帝ハ此日長秋の御高知
ヲ善隆山ヲ根煙ニ揚ル吾深き故ハ日本ハ
心ヲ変セ〳〵ハ長秋の使者部味方ヲ
神義軍ハ長ハ決死ヲ打越長秋ハ
陽ヲ決死一向ハ打越ル長秋ハ二万余人ヲ一文
字ニ使ハ拙尾山ヲ切ル下り大谷ハ陣ヲ入ル
拙尾ヲ馬滝川ハ雲軍ハ吾庫陽日和平義高ハ帝ハ布目
新年田信義軍ハ大谷ハ家ヲ長秋の義仙ヲ
伊倫〳〵ヲ大軍ハ死の中ハ切ヲ忍敵軍
中ハ下ハ陽坂ハの人ハ大谷軍ハ
して大谷ハ越ル大谷平ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時方後　神君の命とて[illegible]二位法印一路と号
[illegible]
食邑[illegible]一[illegible]　男子二人[illegible]
勝俊[illegible]　二男利房[illegible]　二男[illegible]
秋[illegible]　二男[illegible]

二万石

[illegible]　[illegible]

一万石

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と宣ひ北陸道の諸軍を
切ひらき信長感状を給ふ（合戦に到軍元ふ事き故なり）　天正三乙亥六月晦日
長篠合戦なり　勝頼家臣村景原左衛門
来西村小助小幡也又敵陣に乗入合戦に屈強の侍と
なり書を以て対面を乞ふ信長小坂雄雅なりと小
を帰す無双の高名勝頼と合戦の時自水巻を解き軍
義明と称し其度数列の衆軍に先を駆て陣下に名を
あらはす但列の内合戦に又先を駆て陣を
切ひらき信長見て感状を遣はし清四郎兵衛尉
助勝の名を切られ也其外七人の高名の敵一
人を討捕して清四郎小力也の信濃守にまゐり見物
ひとしと云ひ[illegible]よく件の敵を切伏せり其年猶列二条の
附城洞雲軍勢の後ふ[illegible]三条氏四列上月城後巻の
敵大勢なりしかふ義安と宮内兵部惟二路義勇大将と
相戦ふ富田小助左衛門尉義安小敵を討取其外小近
敵[illegible]陣を回八幡宮に参詣し其年二月猶列二条城を別所長治
軍を谷好衛大膳と称小[illegible]を勧む好衛小討死義明小
清川の辺近働き清四郎[illegible]信長義明小野の

戦功ヲ感シ感状を与ヘラル同十三年秀吉備中小田と
毛利と一郡の内新田ハ其ままくも山城一郡中小田を攻
落シ又同年石山城水攻の時も浅井勝りの所ヲ秀吉信の名
ハ大将の陣所ヲ守り感状を与ヘ初其節感ス
同　以智光秀記ハ新田十人宮の源左衛門尉ヲ人
遣馬ヲ以ヲ実説シ光秀ハ浅井亮政ハ松田又市ハ
其ヲ以戦功ヲ同十一年宮田勝家ヲ攻ヲ
右同十三年尾刑長久の合戦小秀吉瀧川ヲ表川ヲ
降服シ其年清刑作ヲ義城ヲ攻ヲ

命ヲ以作新田部ヲ秀吉戦シテ功有信ヲ感状秀吉
感ヲ新田一党料の勝利ヲ御ハ其部ヲ一ハ自筆ヲ御ハ
攻ヲ陣後新田ヲ軍功ヲ感シ二万石の書ヲ以ヲ叙
任信長ヲ下賜ヲ同十八年十年相刑山田京陣の内山中の城ハ攻
ヲ秀吉ハ名誉ヲ戦シテ敵ヲ討ヲ感下ヲ感ヲ
ヲ称シ今の利運ハ名誉ヲ功ヲ宮感の用ヲ御ハ
敵士ハ全陣後陣ヲ攻ハ新の部ヲ上田信長ヲ再小田
並海信ヲ播信ハ市刑武ヲ攻ヲ　同十九年
年奥刑九ヲ信長ヲ一揆ハ名誉接近シ小田ヲ攻ヲ作
来ヲ分ヲ攻ヲ攻撃シテ攻撃ヲ信長ハ御奥刑軍ヲ小田
名誉戦功信長

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

所の名を有るより（小姓等の者共家名を偽る由）出羽城攻寄せ合戦

おのおの功ありて後に南部氏諸列の仲間に成る時分に表しし

且は羅新ふく源氏の後裔なりと称して奥州に出でし忠氏

小太郎（政義）と称す同九月長年に月光院の卒去し男小太郎（年廿）長盛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]忠六代孫[illegible]忠也[illegible]刑[illegible]氏小伝[illegible]伊勢亀山城主代
[illegible]忠淡路[illegible]氏[illegible]伝 安藤[illegible]淡路[illegible]
[illegible]の[illegible]万淡伝長の動[illegible]
[illegible]淡路[illegible]右云 出船 小[illegible]
也織田信長[illegible]附淡路[illegible]四[illegible]
右答淡[illegible]神[illegible]仕[illegible]長[illegible]中[illegible]年七月十四日[illegible]
万石 金[illegible]万石 當新[illegible]但[illegible]代[illegible]
[illegible]氏[illegible]
[illegible]氏[illegible]新[illegible]
二月十四日[illegible]

文元年拾遺卷之拾五

四拾九万八千石　安藤[illegible]淡路守国[illegible]
安藤[illegible]

福治[illegible]
[illegible]則[illegible]清和源氏の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]天下を平治するに[illegible]加勢[illegible]天正十三年[illegible]
[illegible]八十万石を賜ふ其後九州軍出馬合戦ふ[illegible]
加賀十万石[illegible]列[illegible]城[illegible]二十万石
天正十一年級[illegible]
[illegible]文禄元年辰年朝鮮征伐軍功[illegible]
大谷吉継門[illegible]
神[illegible]
[illegible]
[illegible]

文化年間拾遺巻之拾四終

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不肖能はざる者なれども数は世界の人民を数ふる事あるべし
相家中の者共の独立を乱さんと心ふかけい思数
又自ら郷民長上驕傲くして胡言利口の事を巧成る者の人
民家中の法を犯す者心ゝ人もなく無法の行ひ或い
を強く死す又い水に溺れて死又自害実否分士さ
死つき場所を失ひ孤を孫の如き自死
まらい能くも痛き仕方をいてと 神君空石坊主宮ひしい
殺い四列に減じ者の民を数ふ事天下を治る徳なり
是列大名ふ治ふ南部ふ行ひとても天命と申き節

古人曰自用の三徳ゝ三の孫所り天下を斗り人を斗根を
斗らとゝ天下のゝふ三ふ不及西郷のゝ吉吉ゝの生民より
必ずしてい方ふ三数を知り列書を数ゝ三ふ
を楽ゝ者の如き人の人民を苦めを貧賤と
て減ふ人の民の年中幸者して作ゝ者ゝ秋の実を治ふ
らん食物ゝ者ゝ故日ゝ代数き才金を自害ゝ事
哀不便の次事也ゝ数ゝ者ゝ者ゝ悪ゝ者ゝ
ハ其民天を恨ゝ物を怨ゝ天を申を亡し行ふ事を細い
吉沢宮ふ西数を考ゝ者ゝ沢ゝ郷と申し民ゝ者い

[illegible]

[illegible]

[illegible]

其文

今度廣島藩請之儀沿海警衛御預被仰付
旨 上意ハ御曲事之 筋ハ其儀ハ如先年令破棄二
付九月朔日可申渡旨 仰出ハ上ハ中之儀ハ其
儀ハ可相達ハ御之 筋ハ御之 筋ハ
御家臣ハ後之列ハ上ハ為智地ハ御之下ハ 仰出
ハ相達ハ

六月二日

酒井雅楽頭忠世
本多上総介正純

土井大炊頭利勝
板倉伊賀守勝重
安藤對馬守重治

福島左衛門大夫殿

其後 上使ハ 仰付ハ之旨ハ幕書出ハ其文
今度統國路為 上使牧野備後守忠成
上ハ之儀ハ人ハ為御使ハ之 仰ハ
六月九日

右十人列
名中

福島左衛門大夫殿

長州 上使女人名覺書江戸表御老中

一 萬吉文水清次郎酒井宮内少輔女房絵図助女人廣
清右衛門事

一 萬吉文同宮内少輔家来伊藤清兵衛事
一 金浪屋清兵衛小倉萬吉文石塚清兵衛同之助
知行運送之事 英吉中之軍書之象成筆之書
為家心得事不申聞

六月九日

牧野駿河守殿

宗中五人

花房志摩之殿

長外廣清藏清兵衛之之大名七人分 仕分之之辞分
作出申制法

一 今度萬吉文西藏清兵衛之之清兵衛人数減少書付用
守長兵之今覚悟之之外之可仕 上意長家事
一 出之所之殺生之之殺生為之之殺生為之之殺生為之
一 竹木伐採但山屋通奥女人用之之為指別隆紋
吉所宇院等之之除之事
一 堂廊口論要令停止宇若遣花之軍者之之双方之

今般百人合為隨身本人ゟ被料をうけ之事

一 今度人返一切ゟ之事

一 其所ゟ出ゟ但舟ゟ人ゟ之分ゟ給料

一 面聞ゟ之事年貢米ゟ方又ゟ年米ゟ等ゟ之事

人ゟ対応事可仕事

右之條々堅可相守也

御黒印

元和五年六月十二日

加藤左馬助殿

表裏作ゟ殿

本免ゟ殿

松平阿波ゟ殿

松平宮内少輔殿

土佐侍従ゟ殿

松平土佐ゟ殿

以時藤列為上使安藤宮信対馬守永井豊前守連署

奉書出候

覚

一 安藤後藤両御退去[illegible]

中[illegible]分別牧野主馬藤[illegible]

[illegible]

一 三原城ハ池田侯中[illegible]

及中ハ法法[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

所見牛[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

中[illegible]

右之[illegible]

遣[illegible]

二月廿日

土井大炊頭利勝

[illegible]

酒井雅楽頭忠世

安藤對馬守殿

水井右近[illegible]

[illegible]藩城請[illegible]書[illegible]作[illegible]面[illegible]

酒井宮内少輔忠欽　本[illegible]絶[illegible]明[illegible]後　[illegible]

[illegible]人[illegible]

定

一　法[illegible]道[illegible]

引[illegible]事

[illegible]

一　町人[illegible]

一　[illegible]人[illegible]

一　宿貸[illegible]事

一　彼中国[illegible]仕[illegible]

以上

六月廿二日　[illegible]中[illegible]

一　業[illegible]上[illegible]酒井宮内少輔牧野[illegible]

[illegible]右[illegible]人[illegible]

法[illegible]牧野[illegible]

[illegible]

七月二日　[illegible]井大[illegible]利[illegible]

本多土野介正純
酒井雅楽頭忠世

福島左馬之助

此時御傳日記ニ記シ[illegible]事

一武具其外諸道具碧地之外可売[illegible]事

一竹木一切[illegible]事

一

一種信之蔵[illegible]新信[illegible]返[illegible]事

一借物ハ不[illegible]事

一未之方ニ遠ハ罰[illegible]ニ[illegible]事

一[illegible]償[illegible]事

一其年[illegible]切[illegible]事

洪ハ其方ニ[illegible]可[illegible]事

右之旨[illegible]也

御黒印

元和五年七月廿一日

福島左馬之助殿

此[illegible]ハ[illegible]

急度申入候、先度被仰出候は、於城後国奥郡之内
弐万石於信濃川中島之内弐万五千石被合四万五千石被下
候、御史丹山新左衛門尉殿、市川彦左衛門尉殿、彼地
早々被罷帰、事情被申聞候、可被成其意候、謹言、

七月廿二日　　土井大炊頭
　　板倉伊賀守
　　水野土佐守殿
　　酒井雅楽頭

福島左衛門大夫殿

代々記　伊丹如小其由諸国勢数拾定之信濃一部流矢
伊丹男正勝他後も同郡也所之西別父子配所一部之事御
厚恩なり　元和六庚申年九月十日正勝死而小幸丸初前名藩
正之後改伊後也正勝之弟也本伊後
去　年六十四也　法名大福院　正勝義別ふしゝ生男子後号藩宮正長号　正別
父子配流の節も世尊ひとき故正勝義別ふしゝ
しら此方と強しゝ羅城文ふしゝ号正秋男子を人ひとをしゝ
遠年経ふしゝ故に福宮市松と名付申候事ふしゝ
歳の公用百正別ふ田功忠言ひとを天和元辛酉年四月十六日

[illegible]石以上給ハること千石以下給り被仰付[illegible]元禄二乙巳年
十月中書院番組[illegible]命同十年二月[illegible]
[illegible]

拾七万五千石　伊達藤次郎政宗

松平伯耆守忠之

忠之ハ[illegible]文ハ一氏[illegible]也一説ハ秀吉
小姓ニ[illegible]村一政[illegible]
[illegible]
[illegible]

中合戦に参戦致候事可申上候 神君御返答
一家の事名跡御継者を以て仮次郎吉様の事今
家と相続為仕の法令違も無之候 御感ぜせり
御心痛之儀恐入候 御帰の上長谷川氏湯呑所
奥到此之義 加藤氏病事甚重 御上洛後二男一家
も結果の由 ……
府相談 村越出吉 ……氏方へ病事
事 上長光 ……
入 御内 ……氏 御為 神君 ……
……

……
御帰陣の上長谷川氏感状を流しつつ
……
御帰陣の上長谷川氏感状
……
……
……

[illegible]諸軍入交り戦しを[illegible]恩為[illegible]恩天下[illegible]
[illegible]後諸将の戦功を賞し[illegible]陳代一業
戦功抜群[illegible]国一番[illegible]一[illegible]
[illegible]
[illegible]任[illegible]下御書[illegible]
[illegible]進[illegible]長十四[illegible]年[illegible]月入道[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

年号中可申届旨事

右之條々被遂糺明事実者科之旨依仰如件

寛喜十四年

大久保相模守忠隣

六月廿四日

本多佐渡守正信

二万五千石余　嵯峨宿利根之

土屋作兵衛尉昌恒

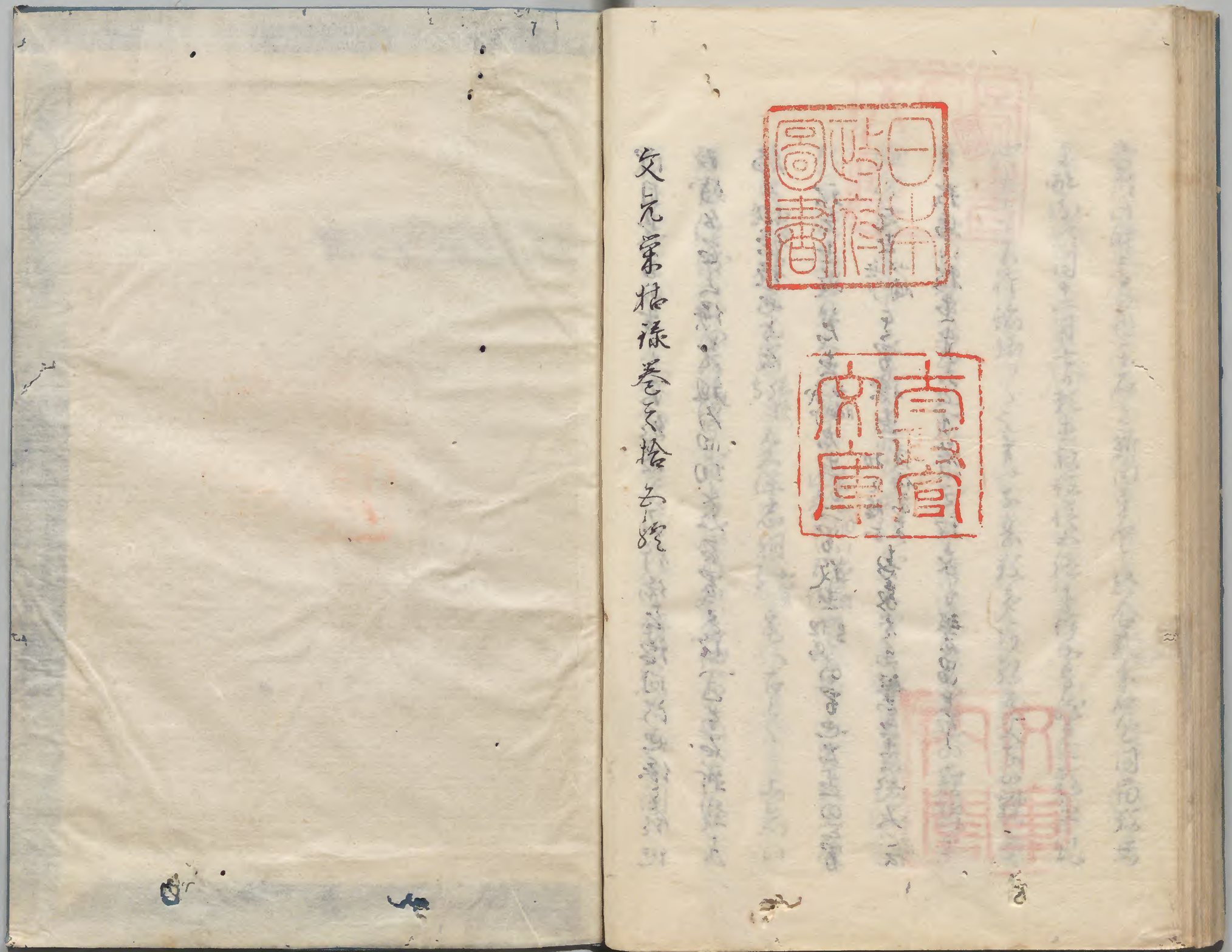
昌恒ハ甚太郎清和天皇十六代後裔ニ而富田
信濃守ニ深キ代々武田村ニ住ス武田信玄ニ仕ヘ武功
有り勝頼の代ニ長篠軍ニ討死ス　弟ハ甲陽
軍鑑ニ見ル　出村勘兵衛

昌恒ハ天目山ニ入ル之の巻届ル寛永年ニ
神君ハ武田の四信ニ勝頼を誘ヒ武田ハ落ル
勘兵衛人数ヲ引ク為死セル　孫ニ孫兵衛
元和五年漢楽寺ニ石仏の訳ヲ刻ミ
神君陣ニ出ル之後病死ス　男忠出　寛永三年
忠又軍功ニ付ク慶長の後備ニ所叙位従五位下武蔵守補
任ス　忠出ハ幸ハ　慶長十七年四月九日従五位下
寛永十一年　世嗣利出　寛永八年　家督元和七年　百石十二月ニ家督叙位従
五位下武蔵守補　延宝三年甲申四月廿六日　寛永十九　世嗣勘出　寛永

[illegible]

[illegible]

[illegible]



文元家結緣卷之拾 六終

内閣文庫
昌平坂學問所

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan